

令和2年 11月 4日

千代田区立九段小学校

校長 清水 明

図画工作科 大高 美和



チクチク・ザラザラな感触

子供たちに人気のゲーム「あつまれどうぶつの森」は、無人島に移住しテント一つから自分の思い通りの生活を作っていく筋立てとなっています。戦いのない明るく平和な島の生活は、ポイントと交換することで快適な生活用品が少しずつ増えていきます。唯一の困ったことは蜂や蚊、アブ、ゴキブリやサソリなどが登場することです。快適な島の生活になぜそのようなものが登場するのでしょうか。やはり、子供たちは快適さだけでなく異質感や違和感も求めており、それをこのゲームはデザインしていると思えてなりません。

さて、図工のアルミ針金を扱う題材では、針金の先の危険性も十分に指導しているのですが、それを帽子や冠、耳輪などにして身に付ける児童を目にします。こんなにも肌触りの良い衣服が市場に出回り、それをまもって登校したはずの数人の児童は、チクチクする針金の装飾品を身に着けようとしています。また、木工では必ずといってよいほど、木材の寸法が変わるほど、ザラザラした木目をツルツルになるまで紙やすりで磨き続ける児童がいます。当然ながら私は、活動の中でその都度指導し、安全で見通しがもてるように進めていくのですが、同時に「チクチク・ザラザラを楽しんでいるな」という共感も禁じ得ません。

展覧会ではお子さんの作品とともに、お子さんが体験した手の触感も追体験しながら、観賞していただければと思います。

1【9月の図工】

3年生「ジャングルのすばらしき生き物」「ベトベト・ドロン大変身」

「ジャングルのすばらしき生き物」はホイル折り紙やスズランテープで飾り完成しました。色の重ね方や組み合わせ、目立たせたい色など、児童一人一人の思いが表れていました。数種類の材料を使うことで、友達同士の学び合いが広がりました。

「ベトベト・ドロン大変身」は違和感や質感を楽しむ題材です。液体年度に浸した布を形づくり、形の見立てをして表していきます。冷たい液体粘土に「ひゃーっ」という歓声が教室にあふれました。



4年生 「ウッディー・ライフにようこそ」

切った木を組み立てて、簡単なウッドハウスをつくります。子供たちは麻布やひもで早くハンモックやベンチが作りたいのですが、今は我慢です。丁寧に柱を切断し、安定感のある丈夫な家をつくっています。この後4時間かけて、思い思いの材料を工夫して「くらし」を表していきます。



5年生

「風と音…空気のカタチ」

きらきら光るアルミ線を工夫して、音や風からイメージするものを表しました。風から森や遊園地、宇宙などにイメージを広げた児童もいます。針金を揺らしたり、ねじって太くしたり、思いついた技法も様々です。鑑賞会では「音を感じる」「明暗を感じる」「優しい感じがする」「勢いがある」など、抽象的な言葉がたくさん聞こえてきました。



6年生 「12歳の力で」組み立て直前！

今月は自分のデザインに沿って材料を切り出しました。自分で組み立てを確かめながら数ミリの誤差を切りそろえます。着色の丁寧さにも6年生にしかできない細かい活動が見られます。また、組み立て前に部品の着色を先に行う児童、白木を生かして作るため、徹底的に部品をやすりで磨く児童など、自分の目標に沿って手順を考えて作っています。



2【11月の題材予定】 敷物・教科書・筆記用具・エコバッグは常に持ってきます。

学年	題材	分野	特別な持ち物
3年	バトバト・ドロン・大变身	平面	絵具セット、汚れてもよい服装で
4年	ウッディー・ライフにようこそ キラキラから見つけた世界	立体 平面	木の工作に合う材料 (布端切れ・綿・小枝・どんぐり)
5年	手の中の私の星	焼き物	古タオル(手ぬぐい)
6年	私はデザイナー 12歳の力で 水のある風景	立体 焼き物	三角定規 古タオル(手ぬぐい) 11月半ばから

